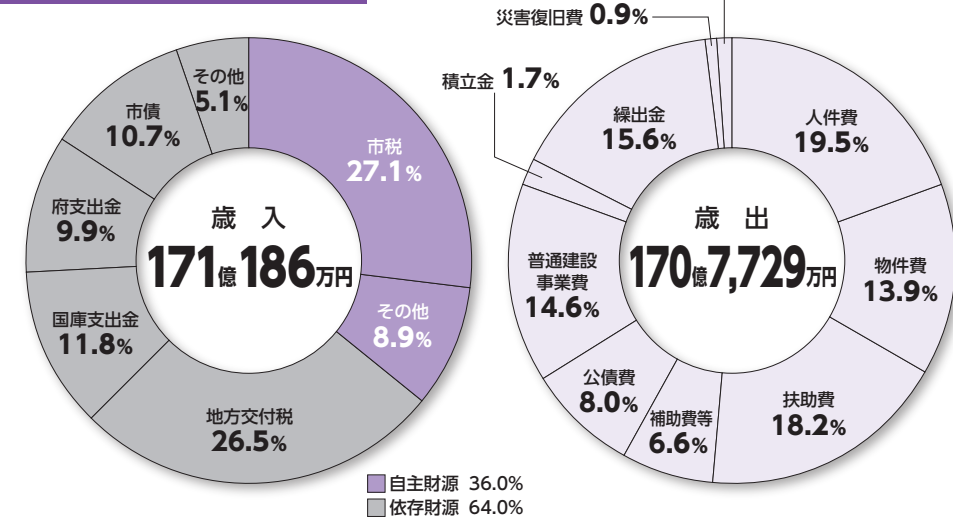
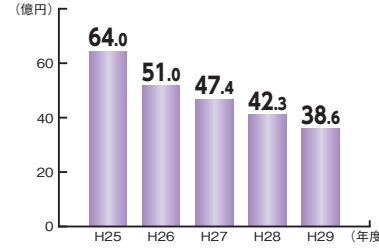


## 歳入歳出の状況(一般会計)



## 基金(貯金)残高の推移



29年度一般会計の歳入は、前年度から3億55万円(1.8%)増となりました。自主財源の柱である市税収入は、

## 市税収入は順調な伸び

前年度比3.3%増。企業収益の伸びや設備投資などにより、法人市民税や固定資産税が増えました。

特別会計10会計は、歳入132億8587万円、歳出130億9109万円。実質収支は1億6540万円で、10会計とも黒字または収支ゼロでした。

## 水道会計は35年連続黒字

災害復旧事業費は同533万円(3.5%)減となりました。しかし実際は、昨年8月から10月に発生した豪雨災害復旧事業のうち、4億7162万円を本年度に繰り越し。さらに、本年度も平成30年7月豪雨の復旧に、過去5年分の災害復旧費よりも多額の予算を計上。財政が圧迫され、当面は災害復旧を最優先に、緊縮財政へと舵を切る必要があります。

## 平成29年度決算

# 災害が財政圧迫 46年連続黒字も

市の平成29年度各会計決算案が10月26日、市議会で開催されました。一般会計は、歳入171億186万円、歳出170億7729万円。残額から平成30年度へ繰り越す財源を差し引いた実質収支は10338万円で、46年連続の黒字となりました。

## 平成29年度主要施策成果マップ

- 排水ポンプ車を初導入
- 志賀郷公民館を地域の小さな拠点として改修
- 八田中学校の給食室を整備
- 豪雨災害の復旧
- 綾部中学校の給食室を整備
- 上林出張所の整備
- 新第一浄水場の整備
- ものづくり交流館の整備
- 上林分団本部詰所等の整備

※詳しくは「主要施策の報告書」で公表しています。ホームページや市役所情報公開コーナーをご覧ください。

また、公営企業会計のうち上水道事業会計は35年連続で黒字。病院事業会計は、2年連続赤字となりましたが、外来や入院などの医療収支は改善しました。

## 続く貯金の取り崩し

市債(借金)残高は、前年度比5億3765万円増の139億307万円。また、基金(貯金)残高は災害対応などにより、前年度比3億6369万円減の38億6208万円です。財政の弾力性を示す経常収支比率は5.6%悪化し94.1%と、過去最も高い数値となりました。

一方、財政の健全性を判断する指標は「これ以上悪化する危険」とされる基準を下回り、すべて安全圏。実質公債費比率は、同基準25%に対し10.4%で、過去最も低い数値でした。将来負担比率も、同基準350%に対し113.8%となっています。

## 財政用語の解説

### 経常収支比率

率が低いほど自由に使える資金が多いことを示す指標。一般財源に占める福祉施策経費や人件費など義務的な経費の割合です。

### 一般財源

市の裁量で使える財源。市税収入や国からの地方交付税などのこと。使い方が定められている国庫支出金などの収入は特定財源といえます。

### 実質公債費比率

借金の額が適正かどうかを判断する数値。一般財源に占める借金返済額の割合です。

### 将来負担比率

市が将来的に負担しなければならない可能性のある、実質的な借金残高などを指標化したもの。一般会計に加え、各特別会計や公社、第3セクターも含めた借金を基に算出します。

## 平成29年度 会計別決算

区分	歳入	歳出
一般会計	171億186万円	170億7,729万円
市立診療所等	3,664万円	3,664万円
農林業者労働災害共済	401万円	272万円
国民健康保険	42億8,389万円	42億7,427万円
介護保険	48億8,004万円	47億3,532万円
後期高齢者医療	5億4,567万円	5億3,590万円
駐車場	2,218万円	2,218万円
簡易水道	5億1,523万円	5億1,523万円
下水道事業	22億4,251万円	22億1,313万円
地域排水事業	7億1,607万円	7億1,607万円
住宅・工業団地事業	3,963万円	3,963万円
区分	事業収益	事業費用
公営企業会計	8億2,245万円	7億6,743万円
	上水道事業	63億8,465万円
	病院事業	64億2,831万円